

彩の歳時記

平成二十四年 十一月

今年三の酉まで有りて中一日はつぶれしかど
前後の上天氣に大鳥神社の賑ひすさまじく
此處をかこつけに検査場の門より
乱れ入る若人達の勢ひとは天柱くだけ、
地維(ちい)かくるかと思はるる。

十一月の声を聞くと、一年の終わりが近い事に
気付かされ、改めて時の流れの速さを感じます。
現在は、**クリスマス**に向けてのイルミネーションが、
街を彩りますが、一昔前は、**酉の市**がそれに当たる
ものでした。**浅草の鳳神社**をはじめ、いろいろな市
町村で、**商売繁盛・家内安全**を願う人々が集い賑い
ます。

近代女性作家の嚆矢【樋口一葉】の「たけくらべ」の一節には、当時の光景が生き生きと
闊達に描かれています。いつの時代も、年の瀬の心持は独特なものがあります。

春を待つ事の始めや酉の市

其角【1661～1707】



十一月の異称

霜月 霜が降る月に由来。**晩秋**から**初冬**にかけて、**移動性高気圧**に覆われた時、春の
ような穏やかで暖かい「**小春日和**」と言われる日がある。

十一月の暦

一日 古典の日 『源氏物語』を著した紫式部の『紫式部日記』に、1008年のこの日、



初めて『源氏物語』に関する記述があったことに因む。今年、公布・施行された。
「温故知新」、古典回帰(ルネッサンス)は芸術の基。

炉開き 旧暦十月(現在はこの日か一の亥の日)に**風炉(ふうろ)**を閉じ、炉を開く。



初夏に摘み、寝かせた新茶で「**口切の茶事**」が行われるため「**茶人の正月**」とも。

犬の日 1987年に制定。「**ワンワンワン**」に因む。平成二十二年の日本の犬・猫飼育実態調査では、
犬の飼育率17.8%。猫10.6%で、50代の人が飼育率のトップ。

七日 立冬【二十四節気】この日から冬。晩秋から初冬にかけて、北からの風「**木枯し**」が吹く頃。

八日 酉の市(一の酉) 浅草鳳神社・新宿花園神社・酉の市発祥の地の**花畑大鷲神社(足立区)**が有名。

三日 文化の日(国民の休日) 昭和29年公布。皇居で**文化勲章**の授与式。この日を中心に文化庁主催の
芸術祭が開催。

十五日 七五三・着物の日 男子は五歳、女子は三歳と七歳の成長を祝って神社・寺に詣でる。

男子の袴儀(はかまぎ)、女子の帯祝など着物に由来する年中行事なので「**着物の日**」
に制定されている。



二十日 二の酉 今年はこの酉までなので、火事が多くないかも。

二十二日 小雪【二十四節気】季節が進み、北の国からは**初雪**の便りが聞かれる頃。

二十三日 一葉忌 樋口一葉【1872～1896】の忌日。生誕140年を迎える。「一葉」が生まれた



明治五年前後は、近代の基となる多くの制度「**太陰暦**から**太陽暦**に、**学制**・**戸籍制度**
廃藩置県など」が導入され、まさに文明開化の始まりの年。台東区竜泉の**一葉記念館**【21日
～23日は入場無料】と文京区本郷の**法真寺**で「**一葉忌**」を実施。

二十三日 勤労感謝の日(国民の休日) もとは**新嘗祭**。その年の新米の収穫を祝う

宮中祭祀。天皇陛下自ら栽培なされた**新穀**を天に供え、食される。

十一月の歌 もみじ 1911(明治44)年、『尋常小学校唱歌(二)』



小学唱歌教科書の編纂委員長だった**高野辰之**【1876～1947】が、信越本線
碓氷(すずい)峠の熊ノ平駅から眺めた紅葉の美しさをきっかけにこの詞を作った。
高野と作曲の**岡野貞一**【1871～1941】はコンビで「**春が来た**」「**春の小川**」
「**故郷**」などを発表。



秋の夕日に照る山紅葉、
濃いも薄いも数ある中に、
松をいろどる楓や蔦は、
山のふもとの裾模様。
溪の流に散り浮く紅葉、
波にゆられて離れて寄つて
赤や黄色の色さまざまに、
水の上にも織る錦。